

《担当者名》柳田早織

【概要】

発声発語障害のうち、小児にみられる機能的構音障害、器質性構音障害（口蓋裂）、吃音について学ぶ。

【学修目標】

機能的構音障害、器質性構音障害（口蓋裂）、吃音について、その症状、評価・診断方法、治療法を理解する。

1. 構音障害を分類し、各々の構音障害の概念を説明できる。
2. 小児の構音障害を理解するために、健常児の構音（音韻）発達を説明できる。
3. 小児の構音障害にみられる音の誤りの特徴を説明できる。
4. 小児の構音障害の評価・診断、治療方法について説明できる。
5. 口蓋裂言語の特徴について説明できる。
6. 口蓋裂における鼻咽腔閉鎖機能および構音障害の評価・診断、治療方法について説明できる。
7. 吃音の定義・症状について説明できる。
8. 吃音の評価・診断、治療について、年齢別に説明できる。
9. 吃音を持つ方の問題を述べることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	機能的構音障害	構音障害の概念と分類 機能的構音障害の定義と問題点 構音障害に関連する要因	柳田早織
2	機能的構音障害	健常児の構音（音韻）発達	柳田早織
3	機能的構音障害	構音障害の評価	柳田早織
4	機能的構音障害	小児にみられる構音の誤り	柳田早織
5	機能的構音障害	評価・診断1 情報収集	柳田早織
6	機能的構音障害	評価・診断2 構音検査	柳田早織
7	機能的構音障害	評価・診断3 構音検査	柳田早織
8	機能的構音障害	評価・診断4 結果の分析	柳田早織
9	機能的構音障害	治療 治療の概念、原則	柳田早織
10	機能的構音障害	治療 訓練プログラムの立案	柳田早織
11	機能的構音障害	治療 誤り方・音別訓練方法	柳田早織
12	器質性構音障害 （口蓋裂）	口蓋裂の基礎知識 ・言語聴覚士の役割 ・言語聴覚士が関わる口蓋裂類似疾患 ・口蓋裂に伴う種々の問題 ・口蓋裂における言語の問題	柳田早織
13	器質性構音障害 （口蓋裂）	評価・診断 ・鼻咽腔閉鎖機能の評価 ・共鳴および構音障害の評価	柳田早織
14	器質性構音障害 （口蓋裂）	治療 ・鼻咽腔閉鎖機能不全の治療 （外科的治療、補綴的治療、言語治療） ・構音障害の治療	柳田早織
15	器質性構音障害 （口蓋裂）	口蓋裂における言語管理とチームアプローチ ・乳児期 ・幼児期 ・学童期 ・成人	柳田早織
16	吃音	定義、発生メカニズム、吃音症状	柳田早織
17	吃音	検査・評価	柳田早織
18	吃音	訓練・指導	柳田早織
19	まとめ	総括	柳田早織

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

小テスト80%、まとめのテスト20%

【教科書】

城本修 他 編 「標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版」 医学書院 2021年

大森孝一 他 編 「言語聴覚士のための音声障害学」医歯薬出版 2015年

日本音声言語医学会 編 「新編 声の検査法」 医歯薬出版 2009年

【参考書】

道健一 編 「言語聴覚士のための臨床歯科医学・口腔外科学 - 器質性構音障害 - 」 医歯薬出版 2016年

岡崎恵子 他 編 「口蓋裂の言語臨床 第3版」 医学書院 2011年

伊藤元信 他 編 「言語治療ハンドブック」 医歯薬出版 2017年

阿部雅子 著 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 改訂第2版」 金原出版 2008年

廣瀬肇 監 「発話障害へのアプローチ - 診療の基礎と実際 - 」 インテルナ出版 2015年

【学修の準備】

これまでに学習した解剖生理学、音声学、音声言語聴覚医学、形成外科学、口腔外科学などの関連基礎項目について十分復習して講義に臨むこと。（80分）

授業終了時に提示した課題について必ず予習・復習を行うこと。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

柳田早織（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、小児にみられる機能的構音障害、器質性構音障害（口蓋裂）、吃音のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。